

研究者支援のプラットフォーム～博士のシェアハウス～

山田 光利



研究者を支援するプラットフォーム

博士のシェアハウスは「研究者支援のプラットフォーム」として「人」「知識」「資金」など研究に必要なリソースを手に入れる支援をする場を目指しています。

ベースとなる活動は「イベントスペース（勉強会・交流会の開催場所）の提供」で、研究者が自主的に運営している「〇〇学会・若手の会」のような会に対してホワイトボード・プロジェクトなど勉強会に必要な設備を備えた部屋を提供しています。

学位論文の発表練習のような「個別具体的な研究について話す会」から、研究装置や研究資金など「一歩引いた目線から研究を考える会」まで、「研究者のための勉強会」という軸は保ちつつ、研究者の視野が広がるような集まりがたくさんある場を目指しています。

デザインされたコラボレーション

2012年第2号の本コラムに掲載された「研究装置を作る会」など、いくつもの勉強会を開催するうちにさまざまな分野の研究者や知識が集まってきました。そういった人たちが繋がれるような交流会を開催してもいいのですが、交流会のような「偶然のコラボレーション」よりも、「この分野の人とあの分野の人で意見交換したら面白いのではないか」とか「この分野の考え方はあの分野にも適用できるのではないか」といったことを私の頭の中でデザインしてピンポイントで人と知識を繋げるような「デザインされたコラボレーション」を意識するようにしています。

他の分野の研究者を紹介してほしいという研究者からの依頼も大歓迎で、「生物分類の手法を、歴史情報を編集するヒントにしたい」という歴史教育の研究者から要望を受けて、生物分類学の研究者を紹介したこともあります。また、研究者だけではなく企業を紹介することもあります。

技術商業化人材の集まる場所 OCH

以前は自分で部屋を借りて運営していたのですが、現在は技術商業化に関わる人が集まって始めたプラットフォーム「Open Connect House (OCH)」に場所を間借りしています。OCHでは研究者の集まる勉強会だけではなくビジネスプランの検討など「技術をお金にする」方法を学ぶ勉強会も開催されています。「研究にはお金が必要」ですし、「商業化される＝研究成果が社会に届く」ことなので、「研究者の支援」と「技術の商業化」は相

性がいいと考えています（ちなみに私は博士のシェアハウスとは別に企業のエンジニア向け特許教育の仕事をしていて、そこでも「技術をどう会社の利益に繋げるか（＝お金をするか）」を教えています）。

研究装置と知的財産

博士のシェアハウスで開催する勉強会は研究分野を特に限定していませんが、私個人としては「研究装置」と「知的財産」に軸を置いて勉強会を開催しています。

特に、知的財産に関しては「若手研究者のための知的財産リテラシー講座」として、Smipsという知的財産の研究会の分科会の1つとして5月から隔月開催することが決定しています。研究者がソーシャルメディアを利用する際のリスク、研究装置などリサーチテクノロジーに関する特許、研究成果の資金化など、研究者の方が知りたい知財という観点で議論する予定です。

Smipsの会場は東京（六本木）ですが、東京以外の場所でも開催したいと考えています。関西では週末に向向いて開催する方向で協力者を募っているところです。

さいごに

博士のシェアハウス（と私）が「今までしてきたこと」と「これからしたいこと」をツラツラと書いてきました。これらの活動に少しでも興味を持っていただけた方はぜひお気軽にご連絡いただけたら嬉しいです。

- ・博士のシェアハウス facebook ページ
<https://www.facebook.com/2ndlab>
- ・管理人 facebook ページ
<https://www.facebook.com/yamada.mitsutoshi>
- ・twitter アカウント @2ndlab



勉強会の様子